

研修委員長 張 裕信 (有清福不動産)

社会の高齢化とともに増加の一途をたどる認知症患者の数。厚生労働省の発表によると、認知症を患う人の数が2025年には700万人を超えるとの推計値がでています。これは65歳以上の高齢者のうち5人に1人が認知症に罹患する計算です。そして今後、認知症患者がますます増加することが見込まれ、深刻な社会問題の増加も予想されています。

そのひとつが介護問題です。決定的な治療法が見つからない中での患者数の増加は、それ自体が大きな問題ですが、それと同時に、認知症患者の数が増えるということはその介護者も増えるということになります。現在でも多くの家族が認知症患者を介護していますが、認知症患者の介護は24時間の見守りが必要であるため、その負担の大きさから様々な問題に発展していることも報告されています。

こうした社会問題を踏まえ、平成29年9月4日(月)午後1時30分より、徳島グランヴィリオホテルにおいて2部構成にて本部研修会を開催しました。

第1部は、徳島県居住支援協議会等のホームページの周知及び有効活用を図るべく、当協会小西流通情報委員長より「徳島県居住支援協議会及びとくしま移住支援物件サイトへの物件登録方法」について説明を行い、第2部は、一般社団法人 徳島市医師会 徳島市地域包括支援センターより宮崎加恵氏、立花小枝氏の2人の講師の先生をお招きし「認知症サポーター養成講座」を開催、多くの受講者の方々に「認知症サポーター」になっていただきました。

「認知症サポーター」は、認知症の人や家族を温かく見守る応援者です。認知症について正しく理解し、偏見をもたず、職場や地域等で自分のできる範囲で活動することにより、認知症高齢者等にやさしい地域づくりに貢献することを目的としています。

高齢者や認知症患者、その家族の方々が住みな



れた地域で安心して生活できるようにするためには地域全体で支えていくことが大切です。

私達は、地域社会の健全な発展を目的とする公益社団法人格を有する宅建協会の会員であるとともに、地域発展を望む住民の一人でもあります。これからも公的な福祉サービスと協働し、認知症高齢者をはじめ、障害者、子どもを育成する家庭等に優しい地域づくり、助け合いながら暮らすことのできる「地域共生社会」の実現に向けて協力していきたいと思っています。

